

アフリカのキリン

保全のための道しるべ

無料で画像を使用することを許可してくれたすべてのカメラマン（フランス：ディーコン、ドンナ・ハンソン、マイク・コック、ルートヴィヒ・シーグ、ニコ・スミット、ミーガン・シュトフス）と、地図を製作したブラック・イーグル・メディアの支援に感謝します。



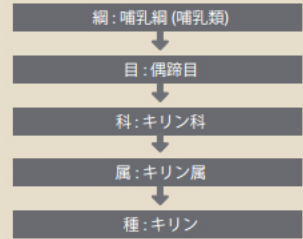
保全上の位置づけ

IUCN — 軽度懸念 (LC): 種として
 ・絶滅危惧ⅠB種 (2008): *G. c. peralta* (ナイジェリアキリン)
 ・絶滅危惧ⅠB種 (2010): *G. c. rothschildi* (ウガンダキリン)

CITES — 掲載されていない

1998年、国際自然保護連合 (IUCN) はアフリカのキリンの個体数を140,000頭以上と推定していました。2013年、キリン保全財団 (GCF) はアフリカ全体の個体数 (すべての亜種を含む) を80,000頭以下と推定しました。IUCN種の保存委員会キリン・オカピ専門家グループ (GOSG) などが協力し、アフリカ全体のキリン個体数について、もっと正確な調査方法を確立しようとしています。

分類と個体数



保全の重要性

キリンがいると生息地の景観に変化が起こります。つまり、土地が開け、キリンや他の野生動物が食べる食物が新たに育つようになるのです。

適度にキリンが若葉を食べることが、アカシアの若枝の生産の刺激になることがわかっています。さらに、種子が食べられると、まだアカシアが生えていない環境への種子分散がもたらされ、消化される際の刺激によって発芽の可能性も高まるので、キリンが葉を食べることはアカシアにとっても有益です。

キリンは受粉の役割も果たしていると考えられています。ケニアでの研究により、キリンや他の大型草食動物から保護されている地域では、いくつかのアカシアが減少して他の種も連鎖的に影響を受けたことがわかっています。

キリンと、ウツツキヤやその他の寄生性鳥類の間には有益な相互関係があります。キリンの体にはいる寄生ダニがついていて、ダニを取り除くウツツキヤやその他の寄生性鳥類から受ける恩恵はとて大きいのです。

経済的な重要性

キリンによる一番の経済効果は、その進化した独特さです。キリンの姿形が、世界中で毎日使われています。関連しないキリンのシルエットと、そこから思い起こされるイメージは、ティーバッグ、ワイン、ウイスキー、携帯電話、FIFAワールドカップというような、いろいろなものを売り込むための広告の中でよく使われます。

しかし、キリンと関わりがある人々がもっとも関心を持っているのは観光収入です。わくわくする旅行先としてアフリカを宣伝する場合には、キリンを取り上げない旅行会社やサファリ・パンフレットはほとんどありません。キリンがアフリカを宣伝していることになるのです!

ゾウやスイギュウのような大型草食動物、あるいは高次捕食者と比べると、キリンは、狩猟市場の中では重要な収益源としては競争することができません。



保全の計画を制限する要因

科学的なもの

生態学、生理学、分類学の長期的な研究や信頼できるデータが不足しているため、キリンを理解することが妨げられています。もっと完全なキリンについての基本情報が、様々な分野で求められています。たとえば、キリンについての長期的な生態学研究プロジェクトはこれまでに行われたことがありません。

アフリカ大陸全体のキリン個体群における遺伝的な研究が進み、キリンの将来の保全や保護管理のための貴重な情報が得られてきているので、上であげたようなすべての科学分野の発展がゆっくりと進み、キリンの分類学上の謎を解明する望みが出てきています。

生態学的なもの

キリンの個体数は捕食による自然死によって部分的に調節されています。成獣の雄のキリンでさえライオンに捕食されることがありますが、亜成獣や子には特に弱く、ハイエナ、ヒョウ、チーター、ワニ、そしてもちろん、人間によっても捕まえられることがあります!

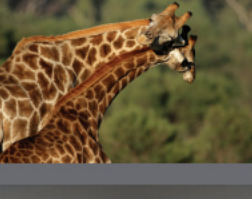
さらに、栄養失調、短い乾季の食物の品質と量、炭疽や牛疫などの病気により、個体数の増加が制限されています。

社会的なもの

キリンはほかのもっともカリスマ的な生きものと競合しています。最近になって時代遅れになってきたこれまでの保全上の位置づけによって、「まわりにはキリンがたくさんいる」というよくある誤解がさらに進んでしまいます。

「軽度懸念 (LC)」に分類されているキリンの生息数は、「絶滅危惧Ⅱ類 (VU)」に分類されているアフリカゾウの5分の1以下と推定されています。

密猟によってキリンの個体数にどのような大きな変化が引き起こされるかは、まだ十分にはわかっていません。



保護管理のための優先事項

- ・ キリンの現状についてもっと広く知ってもらうために、キリンの保全の概要と重要性を国際的に宣伝すること。
- ・ キリンや他の野生動物のものを守り、彼らの生存に適した生息地を保護すること。
- ・ キリンの生態、保全、保護管理についてもっと理解するための革新的で献身的な研究を支援すること。
- ・ キリンの保全と保護管理をサポートし、広く知ってもらうために、すべての亜種の個体数について最新の状況を明らかにすること。
- ・ キリンにとって脅威になること、それらを軽減する新しい方法を見つけ出すこと。
- ・ キリンの未来をまもるため、個人と組織の世界規模のネットワークをつくること。
- ・ キリンについての研究や保全、保護管理について話し合うための討論会やフォーラムを行うこと。
- ・ 人間と野生動物の持続可能な未来を創り出すために、キリン保全活動の計画と地域社会と協力した活動をサポートし宣伝すること。

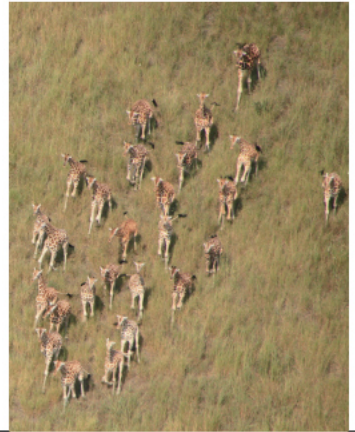
脅威になること

密猟、人間の人口の増加、戦争や社会不安の影響、病気、生息環境の喪失、生息地の断片化や荒廃は、アフリカ大陸全体のキリンの分布に影響を与えています。

多くの脅威は、人間や家畜との資源を得るための競争や対立 (直接的なもの、間接的なもの、予想通りのもの) から生じます。生息地の荒廃と破壊は、農業、牧畜、無秩序な伐採や燃料木の採取が増えたことが原因です。農作物への被害も、人間と野生動物の軋轢の原因になっており、家畜の近くに来ることで感染症がうつる可能性もあります。保護区の外に住んでいるキリンが車にひかれたこともあるのです!

人間の人口が増え、人がすみ場所が広がってキリンの生息地が分断されると、キリンの個体群の間で遺伝子の流れや遺伝的多様性の交流がなくなります。これにより種の進化的可能性が制限されることになります。分断された個体群とボトルネック (過去に一度遺伝的多様性が低くなること) を経験した個体群は、近親交配につながるようになるような同じ系統同士で交配する危険にさらされることになります。

アンゴラキリン	<20,000
コルドファンキリン	<3,000
ヌビアキリン	<650
ケープキリン	<12,000
ナイジェリアキリン*	<300
アメリキリン	<4,700
ウガンダキリン*	<1,100
キタローデシアキリン	<1,000
マサイキリン	<37,000



キリン保全財団 (GCF) は、野生のすべてのキリン個体群の未来を確保するために活動しています。GCFはこのもっとも典型的なアフリカの大型草食動物とその生息地の保全に集中的に取り組む、世界で唯一の慈善団体です。

www.giraffeconservation.org

